



応用生態工学会ニュースレター

Ecology and Civil Engineering Society (ECESJ)

No.49

2010 (平成22) 年8月13日 (金) 発行

〔発行所〕 応用生態工学会事務局 〒102-0083 東京都千代田区麹町4-7-5 麹町ロイヤルビル405号室

TEL:03-5216-8401 FAX:03-5216-8520 E-mail: ecjes-manager@ecjesj.com HP: http://www.ecjesj.com/

〔発行者〕 応用生態工学会 (編集責任者: 幹事長 藤田光一, 事務局長 仮谷伏竜)

1	はじめに	1
2	理事会・幹事会報告	1
3	技術援助委員会報告	8
4	フィールドシンポジウム in 仙台 開催報告	9
5	行事予定	11
5.1	第14回札幌大会	11
5.2	マングローブ・河口干潟の保全とその技術 フィールドシンポジウム 那覇	12
5.3	応用生態工学会地域シンポジウム 山口	12
5.4	第9回 北陸現地ワークショップ in 富山	13
5.5	第3回 近畿現地ワークショップ in 淀川	13
7	今後の予定	14

別紙 第14回札幌大会 参加申込書  
札幌大会 現地自由集会チラシ  
会誌公開(J-STAGE)パスワード変更案内  
北陸ワークショップ in 富山チラシ

## 1 はじめに

9月21～24日に開催する第14回札幌大会(かでの2.7:札幌市中央区北2条西7丁目)のプログラムも決まり、準備も大詰めに突っ込んで参りました。

大会プログラムについては、以下のURLよりダウンロード・印刷をお願いします。

[http://www.ecjesj.com/J/events/annual/14th\\_meet/14th\\_program.pdf](http://www.ecjesj.com/J/events/annual/14th_meet/14th_program.pdf)

第14回総会は、9月24日(金)11:00～12:00に実施が決まり、審議事項も決定しました。総会の成立には正会員の1/5の出席が必要であるため、欠席される正会員は、別途送付する電子メール・ハガキ等の委任状に必要事項を記入の上、9月10日(金)

までに事務局までご返信くださいますようお願い致します。なお総会資料は、完成次第、ホームページ上で公開いたしますので、ご確認ください。

## 2 理事会・幹事会報告

本年6月に第44回幹事会、7月に第53回理事会が開催されました。理事会・幹事会での報告および検討事項・意見について報告します。

役員会開催状況
第44回 幹事会 平成22年6月17日(木) 15:00～17:00
第53回 理事会 平成22年7月7日(水) 15:00～17:00

### 第53回 理事会

- ・日時:平成22年7月7日(水) 15:00～17:00
- ・場所:弘済会館 4階 梅(中)会議室
- ・出席者:近藤会長, 井上理事, 江崎理事, 大島理事, 熊野理事, 小林理事, 島谷理事, 関根理事, 玉井理事, 辻本理事, 中村理事, 松井理事, 山本理事, 渡辺理事, 藤田幹事長, 仮谷事務局長
- オブザーバー:久保市委員(竹門 普及・連携委員長代理)

### 1 報告事項

#### (1) 会員状況報告

平成21年度末の会員総数は、設立以来最も多い1,241人(正会員:1,141人, 学生:96人, 名誉:4人)となり、賛助会員・口数は平成20年度末と同じ33法人(50口)であったことを報告した。また、国際英文誌(LEE)を購読している学会員数は、131名(正+賛助+名誉:120名, 学生:11名)であった(平成22年6月29日)。

(2) 委員会報告

1) 大会実行委員会関係

札幌大会(9月21~24日)で決定した予定のうち、22日(水)夜に各委員会開催、23日(木)夜に懇親会開催、24日(金)午前中に幹事会・理事会・総会開催、同日午後公開シンポジウムを実施するため、理事の出席を依頼した。

【理事会意見】

- ・発表に対する賞を設けてきちんと評価することが学生会員の参加増につながる。
- ・研究発表・会誌への投稿論文を含めて生態関係の学会に出しても良いようなものが多い。「応用生態工学」なのだから、現場に応用している事例・研究も評価し、活性化を図っていく必要がある。

2) 会誌編集委員会関係

会誌編集委員会からの報告として、以下の事項を報告した。

- ① 2010年4月より森 編集委員長, 継続・新委員を含む22名の新体制となった。
- ② 2010年度の第1回会誌編集委員会(4月15日)を開催し、内規に基づき、角野康郎委員が副編集委員長として推薦・承認された。
- ③ 編集幹事については打診中であり、早期に決定し報告する予定である。
- ④ 専門編集委員制度の廃止、校閲期間の短縮により校閲規定、編集委員会内規が変更となるため、次回理事会に諮るよう委員会で議論を進めていく。
- ⑤ 会誌発行状況は、12巻1~2号の掲載論文数は各6編であり、13巻1号は7月20日の発刊に向け校正作業中である。今後は、様々な分野の特集記事を組み、会誌・投稿の活性化を諮っていく予定である。
- ⑥ 中期計画骨子に対する委員会目標の設定については、幹事会からの指摘に基づき、アクションプラン(原案)の数値目標(校閲期

間は1ヶ月原則等)について、8月中旬までに委員会で議論を進め報告する。

【理事会意見】

「応用生態工学」であることの本旨を踏まえ、現場に応用している事例・現場紹介等も掲載し、会誌の活性化を図ってほしい。賞を設けることも、投稿や学会入会のインセンティブになる。

3) 普及・連携委員会関係

2010年度の普及・連携委員会(メール会議、委員会:7月1日開催)の状況と幹事会からの意見への対応について、久保市委員(竹門委員長代理)より報告がなされた。

- ・委員会で設定した、「委員会の目的と事業(役割)」について報告した。
- ・平成21年度第1回フィールドシンポジウムでの委員会での評価について説明した。
- ・平成23年度からのフィールドシンポジウムは、委員会主催による全国規模の企画とし、年2回(5月・9月)開催する委員会のうちの5月に併せて実施していきたい。開催地は、同年の全国大会と離れた地域とすることで大会に参加しづらい地方会員にも配慮し、大会とは別の全国規模のシンポジウムとなることから、理事・幹事にも積極的に自費で参加して頂きたい。
- ・第3次中期計画骨子(案)、同アクションプランについては、今後委員会内でメール会議を行い、方向性として「会員増数目標や、ワークショップの開催数等、数値目標化すること」について報告した。

【理事会意見】

中期計画骨子(案)に具体的な数値目標を設定していくとした事について、賛同された。

4) 国際交流委員会関係

7月9日まで募集している「海外学会派遣者募集要項」とその応募状況(2件申込み)について報告した。

理事会より、海外派遣者の選出に対し、海外への派遣者がより効果的に学会活動をアピールできるよう派遣者募集要領を検討してほしいとの意見があった。

### (3) 名古屋国際WS開催報告

5月13～14日に開催された「生物多様性保全に向けた応用生態工学からのアプローチ～COP10名古屋に向けて～」について辻本理事(実行委員長)より、議論の結果とりまとめられた報告書の概要説明と報告があった。

#### 【採択された行動計画】

散在する地先の生息場モザイクの保全,それを連結する水・物質フラックス網の健全化,それを実施する仕組(ガバナンス)あるいはそれを支える「都市の責任」の3つを軸としながら,生物多様性の保全に向けた行動を実践し,自然共生型流域圏をめざす。

### (4) ICLEE 理事会報告

5月19日に開催されたICLEE理事会について中村理事から、URBIOについて井上理事から報告があった。

ICLEE理事会で持ち帰り審議となっていた「次期役員(案)」については、会長、副会長、事務局長、LEE編集委員長の人事について承認された。LEE編集副委員長については、前LEE編集委員長である中村理事が調整の上、報告することとなった。

## 2 審議事項

### (1) 平成21年度決算報告、平成23年度予算(案)・中期計画アクションプラン(案)について

#### 1) 平成21年度決算について

平成21年度決算は、総収入21,186,095円に対して、総支出22,516,428円であった。決算上、支出超過となっているが、これは「応用生態工学会」の商標権(1,281,930円)とパソコン2台分の資産(165,992円)を一括して償却

したためであり、これらの償却分を除くと、117,589円の黒字であることを報告した。

特に大きく予算を超過した費目は、会議費(理事会・幹事会交通費)、委員会活動費(旅費交通費)であり、あわせて約230万円予算を超過したことについて報告した。

### 2) 平成23年度予算(案)・中期計画アクションプラン(案)について

平成23年度は収入の減少が予測されるため、支出を抑えて黒字とした2案について提示し、また、第3次中期計画骨子・アクションプラン(案)と併せて審議を行った。

#### 【承認・決議事項】

- ・審議の結果、収入減予測を踏まえて、支出を抑制しつつ、収支を黒字としながら中期計画実現のための予算(150万円)を組み込んだ案を前提として、本理事会での意見を踏まえて予算配分を検討していくこととなった。

#### 支出抑制概要：旅費縮減(低額航空チケット活用等)

- ・役員会開催数減(4→3回)、大会会場等の大学等利用による会場費抑制、ニュースレター電子化、国際交流委員会の海外学会派遣助成費縮減等
- ・旅費交通費の縮減(特割等の低額航空チケットの活用(正当な理由がある場合、払戻手数料等の支出もセット)、定額宿泊費の見直し)を図っていく。
- ・大会時に実施する役員会・委員会旅費については、支出する・しないの判断基準の見直しを行う。その上で、所属先からの旅費の支出が困難な場合には学会から支出するよう配慮する。支出する場合にも、低額航空チケットの活用や正当な理由がある場合の変更・払戻に際して必要となる手数料の支出等、支出方法・ルールを検討し、文書化して運用・徹底を図っていく。
- ・役員会開催数を年4回から3回に変更する。
- ・ニュースレターは電子化を進め、電子メールで会員に配信する。メールアドレスを持たな

い会員には、これまで通り送付する。

- ・学会員の海外派遣費を縮減する。国際交流委員会内でアクションプラン実行費と合わせて、効果的な活動を検討する。
- ・本日の理事会での意見を踏まえ、各委員会で、中期計画期間4年以内で、全体で600万円程の予算を見込んだ場合にどのような活動が可能かプランを検討し、幹事会で意見集約の上、アクションプラン(案)と実行予算(案)を策定する。これらは、総会までに理事会(メール会議)に諮ることとする。

**【理事会意見】**

- ・大会時の公開シンポジウム費は、河川整備基金の助成額も減少してきており支出を見直す必要がある。助成金額を超えて実施する場合には、資料代を徴収する等の工夫も必要である。公開シンポジウムと研究発表会の大会収支はトータルで考え、独立採算をしっかり守っていく必要がある。
- ・他の学会では、会員が大会に自費で参加しており、大会に参加した委員・役員で委員会・役員会を行っている。応用生態工学会も、大会への参加が主目的である場合、一緒に開催される委員会・役員会への出席があるからといって学会からの旅費を支給するのは控えるなど、自費参加が可能な状況を生かすなどして、旅費の縮減に取り組む時期にきている。ただ、所属先等によっては旅費の支出が困難な場合もあるため、そのような場合には支出できるよう配慮する必要がある。
- ・会費(正会員:5千円、学生会員:2千円)の増を検討する時期に来ているのではないかと。ただし、会費の値上げを考えるのであれば会員メリットの拡充を検討・実施することが必要であり、設立時に会費を低く設定したのは、多くの人に入会してもらうという意図もあった点にも配慮する必要がある。
- ・アクションプラン(案)の地域研究会の会員増(目標:300人)は、地域の負担とならな

いよう配慮してあげる必要がある。

- ・入門書・教科書を新たに執筆していくことは、大きな労力を伴うため、現在、各大学で応用生態工学会に関する授業をどのくらい実施しているのか、ホームページ等から把握してはどうか。その上で、既に講義に用いられている題材をベースに、教科書的なものをつくっていくというのが現実的であり、まずはそこから実施していく段取りを考えてはどうか。実施にあたっては、理事・幹事の他、会員からのボランティアも募り作成していく体制を作っていくと良い。 等

**(2) 第14回 総会審議事項(案)について**

総会での審議事項(案)として、規約の改正、第3次中期計画(案)の発表について提示し、現段階の審議項目として承認された。

**(3) 規約の改正について**

第51回理事会(2009年12月17日開催)にて、「役員会(理事会・幹事会)と委員会の情報共有・合意形成に向け、委員長は役員会にオブザーバーとして役員会に出席すること」について承認され、これに伴い規約を改正することについて承認された。

規約の修正(案)については、委員長はオブザーバーとしての参加であるため、15条6「幹事長は理事会に出席し意見を述べることができる」とは別の条項とすることとの意見があった。このため、「各委員会の委員長は、必要に応じて理事会に出席することができる」として、後日修正(案)を再度理事会に諮ることとなった。

**(4) 地域活動への助成申請状況**

2010年度に試行する「地域活動に対する助成(5万円/件上限)」に対して、3つの地域からの申込みがあり、普及・連携委員会で審議した意見を加え、理事会に提示した。

理事会では、「申込みについて普及・連携委員会の予算内で実施するのであれば、今後理事会の審議事項とせず、委員会が責任を持って承認・支給・報告することによい」との了承を得た。

—以上—

## 第44回 幹事会

- ・日時：平成22年6月17日(木) 15:00～17:05
- ・場所：弘済会館 4階 梅(東)会議室
- ・出席者：藤田幹事長、西副幹事長、河口幹事、坂之井幹事、清水幹事、関島幹事、東幹事、仮谷事務局長、関根次長  
(意見書提出：5名)

### 1 報告事項

(第53回 理事会報告も併せて参照ください)

#### (1) 会員状況報告

幹事会からの指示として、中期計画策定に際する基礎資料となるよう、学会員の所属内訳、年齢構成等の所属会員の状況がわかる資料を事務局で整理していくこととなった。

また、会員数の増加を目指す場合には、どの年代・所属先等を対象として活動していくことが効果的なのか、学生会員の会費を下げた入会しやすくしてはどうか等の意見があり、継続して幹事会で議論していくこととなった。

#### (2) 委員会報告

##### 1) 札幌大会実行委員会関係

ポスター発表の審査員、口頭発表(各セッション)の座長は、大会実行委員会より幹事を中心とする学会関係者に依頼するため、幹事等関係者の大会への出席調整を早め実施し、引き受け可能か確認するよう意見があった。

また、研究発表の申込み期限について、2010年9月は他学会の大会が複数重なっているため、現在の7月5日までの申込み期限では参加を諦める人も出てくる可能性があるとの指摘があった。大会実行委員会は、受付期限を延ばしたり、

2次募集を行う等、柔軟に対応した方が良いとの意見があった。

### 2) 会誌編集委員会関係

4月15日に開催された会誌編集委員会での議論の概要報告として、今後委員会内で議論していく「校閲規定・内規(事務局原案)」, 中期計画骨子(案)・理事会意見に対する委員会見解について報告した。

#### ①校閲規程、内規の改定について

校閲規定・内規(事務局原案)の報告に対して、幹事会から以下の指摘・意見が出た。

校閲規程の修正は重要な検討事項であるため、第51回理事会(平成21年12月17日開催)より原則となった、委員長(もしくは委員長が指名した委員)が出席することが望ましい。今後、この原則に則って審議を進めていくために、事務局より会誌編集委員会に出席を依頼していく。

#### ②次期中期計画の委員会目標について

中期計画骨子(案)に対する委員会目標については、委員会での検討の結果、「無理に数値化せず、文章による目標設定を検討していく」との見解であったことを報告し、幹事会から以下の意見があった。

理事会から具体的な数値目標を設定するようにとの意見が合ったことを踏まえると、数値目標を設定することが望ましく、再度委員会で議論した結果と設定した目標について、次回幹事会で報告してほしいとの依頼があった。

#### ③投稿された報文原稿の分類判定について

幹事より、「学会誌に掲載されている原著論文の中には、事例研究と分類した方が適切ではないかと感じる論文もあり、編集委員の中でも判定要素・見解が分かれているのではないか。」との意見があった。幹事会より会誌編集委員会に以下の依頼を行うこととなった。

報文原稿の分類(原著論文、総説、短報、意見、事例研究、書評、特集、トピックス)も多すぎるように感じるが、これらの分類が必要であれば

委員会としての見解(判定要素)を示してほしい。統一的な見解は難しいかもしれないが、過去の議事録を確認するなど整理してほしい。

### 3) 普及・連携委員会報告

電子メールを利用した会議(5月8~14日)により整理した、普及・連携委員会の目的・役割(案)、矢作川フィールド・シンポジウムの評価(素案)について報告した。なお、これらの案については、7月1日開催の普及・連携委員会で再度審議を行う予定であることを申し添えた。

事務局からの報告に対して、幹事会から以下の指摘があった。

#### ①幹事会・理事会への報告について

7月1日の委員会で検討した評価結果を次回理事会(7月7日開催)に報告するのであれば、幹事会で検討する機会がない。幹事会は、理事会への報告・審議事項とするかどうかといった判断・役割も担うため、調整が必要である。

以前は、委員長の幹事会・理事会への出席・報告の機会が明確ではなかったため、事務局が資料を作成し説明してきたが、前述のように委員長が幹事会・理事会に出席し、報告・説明する仕組みができたのだから、その原則を遵守していけるよう調整していく。

このため次回幹事会では、委員会よりフィールド・シンポジウムの定義と7月1日開催の委員会討議結果を提示・説明してもらい、評価結果について討議を行うこととしたい。

理事会への説明は、幹事会が納得した場合には幹事長が代理で説明することも可能であるが、委員長、または指名された委員が説明することが原則である。なお、この役割分担の考え方については、幹事会のあり方とも関わってくるので、引き続き検討を行っていく。

#### ②矢作川フィールド・シンポジウムの評価(素案)について

全国規模で開催するフィールド・シンポジウムと地域が企画するワークショップの違いがよくわからず、フィールド・シンポジウムの実施効果がよくわからない。

フィールド・シンポジウムで得られたノウハウを地域主催のワークショップに活かしていくという目的があるのであれば、大規模なワークショップの開催経験がない地域等でフィールド・シンポジウムを共同で実施したり、フィールド・シンポジウム経験のある地域が支援して地域ワークショップを企画・開催するなどの工夫も必要である。

### 4) 国際交流委員会報告

国際交流委員会が実施している「海外学会派遣の募集開始」について報告した。

これに対し、「募集に際しては、これから海外で開催されるシンポジウム・発表会等の情報一覧を示した方が応募しやすい」との意見があり、各幹事より海外のシンポジウム開催予定等の情報を再度事務局に提供することとなった。

### 5) 技術援助委員会報告

6月2日に開催された技術援助委員会の討議結果について、口頭で幹事長より説明があった。

- ① 委員会の名称は、技術援助委員会となった。
- ② 技術援助を行う対象は、応用生態工学に関する実地調査・研究活動を行っている調査・研究グループ(実際のフィールドでの研究を実施しているグループ)を原則とすることとなった。
- ③ 委員会の構成は、辻本委員長、江崎委員、島谷委員、中村委員、山室委員の5名である。
- ④ 幹事会で意見のあった、地域の市民団体・NPO等からの技術援助要請については、普及・連携委員会と調整し、当委員会による援助ではなく当該地域の研究会での対応とする

方向である。また、公共事業は調査・研究活動ではないため、現段階では技術援助の対象としていない。受託事業としての受け入れの可能性や体制の整備が進めば、技術援助の対象として検討していく方向である。

- ⑤ 委員会の活動にかかる費用は、学会内での活動は当然学会から支出するが、要請による活動については、調整の上、要請先からの支出を原則として活動する。
- ⑥ 現在、辻本委員長が、複数の機関に技術援助委員会の活動を紹介し、連携の可能性を確認している。

### (3) その他、報告事項

現在の事務局長出向期間は、2009年4月1日～2011年3月31日までの2年間であるため、事務局長交代に向け、会長に相談の上、調整・準備を進めていくことを報告した。

## 2 検討事項

### (1) 平成21年度決算、23年度予算案

平成21年度決算の報告と、その決算状況を踏まえた平成23年度予算(案)について提示した。予算(案)は、平成21年度実績値と平成23年度収入・支出見込みを単純計上すると、赤字予算となることを報告した。

予算(案)について以下の指摘があり、収支バランスのとれた修正予算案を検討することとなった。

- ① 平成22年度予算(第13回総会決議)が赤字予算であったことを踏まえ、次期予算(案)の収支バランスを十分検討する必要がある。
- ② 赤字予算の場合の収入増をどこで確保できるのか検討する必要がある。書籍の出版は、完売しないと赤字を助長することもある。
- ③ 赤字予算とする場合には、次期中期計画で収益を確保できるような施策を位置づけ、早期に収支バランスをとることが可能なシナリオを提示するという考え方もある。
- ④ 支出の削減を行う場合は、会議費(理事会・

幹事会交通費)・委員会活動費の削減、ニュースレターの電子化による支出減等が考えられる。

- ⑤ 生態系の学会では、全国大会に自費で出席して委員会等を実施している場合が多い。土木工学系の学会では交通費の支給等、手厚い部分があるが、それでも学会開催時に委員会を同時開催して、委員会出席旅費を節約するなどの方法をとっている。こうしたことを参考にすれば、応用生態工学会関連の会議のための旅費を状況と無関係に一律に支出するのは再考すべき時期かもしれない。役員・委員の委嘱依頼の際に、「学会から交通費を支出する」こととしているため、財源が不足する場合には、次回委嘱時(2011年総会、2011年度末)には、委嘱条件を検討していくことも必要である。

- ⑥ 平成23年度予算(案)については、まずは削減可能な項目を抽出し再検討を行う。最低限の支出を考えても収入が不足する場合には、収入源の確保方策を検討する。その上で、学会の発展や会員増等の必要な施策を実施する必要がある場合には、一つの案として、特別予算を組み、繰越金からの支出を期限付きで検討することも考えられる。

- ⑦ 以上の意見・指摘を踏まえつつ、幹事長、副幹事長、事務局で予算(案)の修正を行い、複数案設定し、メール等で各幹事に修正予算(案)を配信し意見を求める。

- (2) 第14回総会審議事項(案)、学会規約改正(案)現時点の審議事項、規約の改正内容について了承された。

### (3) 地域研究会活動への助成制度(案)について

地域研究会の活動に対する助成制度(案)を作成・提示した。幹事会からの指摘は、以下の通り。

- ① 地域活動への助成は、現時点で平成22年度のみを試行であるため、制度(案)とすると

継続して実施していくかのような誤解を生じる。

- ② 冒頭に試行であることを示した上で、タイトル等を再考すること。

#### (4) 次期中期計画骨子(案)について

次期中期計画の作成スケジュールと、今後の具体作業について討議を行った。

- ① 本骨子(案)は、第14回総会(9月24日)での発表・審議に向け策定を進めている。
- ② 将来構想委員会からは、骨子(案)について幹事会で検討するようにとの指示があったため、幹事会で骨子(案)の詰めと具体のアクション・プランの検討・作成を進め、総会までに理事会の承認を受ける必要がある。
- ③ 幹事長、副幹事長、事務局で、骨子(案)の詰めと、それに対するアクション・プランの原案を作成し、再度幹事に諮り意見を求めていく。
- ④ 中期目標を提示していない委員会には、委員会目標の原案を作成し、再度委員会に投げ掛け、目標を決定してもらうこととする。

ー以上ー

### 3 技術援助委員会報告

第52回理事会において設置が決まった技術援助委員会(委員長:辻本哲郎理事)の第1回会議が、平成22年6月2日に開催され「技術援助委員会の活動・実施方針」について議論されました。今後はこの活動・実施方針に基づき、現委員会の体制を軸に試行しながらその結果を吟味し、実施方針の見直しや体制についての提案を行っていきます。

#### 技術援助委員会の活動・実施方針

##### (1) 委員会名称

委員会の名称は、技術援助委員会(以下、本委員会と言う。)とする。

##### (2) 目的

本委員会は、学会規約第4条「4 応用生態

工学に関する調査・研究活動に関する技術援助」の実施を行うことを目的とする。

##### (3) 技術援助の対象

技術援助を行う対象は、応用生態工学に関する実地調査およびそれに基づく研究活動を行っている調査・研究グループであることを原則とする。

##### (4) 技術援助の範囲

- ① 研究の方向性や内容に対するアドバイス
- ② 研究の成果に対する評価
- ③ 研究発表会等の実施

##### (5) 技術援助実施の判断と援助方法の決定

技術援助の要請に対しては、その要請内容・フィールドの規模を踏まえて、当学会として主体的に取り組むべき援助内容であるかを検討した上で、委員会が実施の可否を判断・決定する。技術援助の実施にあたっては、その要請に応えるための要件(実施方法、技術援助の程度、実施回数、旅費交通費等の経費負担)について委員会で検討の上、要請者と調整を行い、当学会として援助方法を決定する。

なお、地域の市民団体・NPO等からの技術援助要請については、普及・連携委員会と調整し、当委員会による援助ではなく当該地域の研究会での対応とすることをまず検討する。

また、事業者からの「事業評価」に関する要請については、上記の援助対象には当たらないことから、当委員会による技術援助としては実施しない。

##### (6) 技術援助に関わる経費

本委員会の学会内での活動経費は学会で負担し、要請に応じて実施する活動経費および技術援助・発表会等の場の設営に関する費用は要請者側の負担を原則とする。その上で、当該技術援助が当学会の主体的取り組みとして行われるよう、委員会として必要な整理を行うものとする。

## 4 第2回 フィールドシンポジウム in 仙台 開催報告

都市河川の自然創生を考える ～広瀬川の清流を守る取り組み～

応用生態工学会 仙台  
橋本 正志((株)復建技術コンサルタント)

### ■現地見学会

日時：平成22年7月1日(木) 13:30～16:30

場所：広瀬川(広瀬橋～牛越橋間)

参加者：55名

説明者：宮城県仙台土木事務所河川第一班 技術次長 小林 晴紀氏

#### <見学場所1：郡山堰魚道>

郡山堰には、両岸に魚道が設置されていたが、魚道の破損や構造的にアユなどの魚類が遡上できない状態で放置されていた。平成18年12月に市民、NPOと行政、研究機関、漁協等が実行委員会を立ち上げ、平成19年5月に階段式魚道が設置された。しかし、アユの遡上がうまく行われていないことが判明し、最終的には平成21年5月に斜路式魚道が完成した。

現在はアユを始め、多くの小型魚の遡上が確認されている。



郡山堰魚道の説明

#### <見学場所2：石河原の創出(澱地区)>

澱地区では、河川敷の利活用に関し、地域住民、NPO、市民団体等とワークショップ形式により協働で計画を策定した。ここでは親水・利用空間としてのニーズが高く、ワンドへの通水、樹木の伐採、石河原の創出などの施工が行われた。

石河原は施工後2年が経過した状態であるが、ツルヨシなどの植物が繁茂し始めており、今後植生遷移のモニタリングが必要と思われる。



石河原の創出(澱地区)

### ■シンポジウム「都市河川の自然創生を考える — 広瀬川の清流を守る取り組み — 」

日時：平成22年7月2日(金) 9:40～15:10

場所：仙台青年文化センター

参加者：101名

基調講演：「多自然川づくりにおける河岸・水際の捉え方」

萱場祐一氏(土木研究所 自然共生研究センター長)



基調講演：萱場祐一氏



## 5 行事予定

### 5.1 第14回札幌大会

応用生態工学会では、9月21日(火)から24日(金)の4日間、第14回札幌大会を開催します。

本年度は、研究発表104編(口頭:36編、ポスター:68編)と大変多くのお申込みがありました。また研究発表者のうち、審査申込みのあった発表者には、口頭発表賞・ポスター発表賞についても企画しています。詳しくは、下記ホームページをご参照ください。

#### (1) 全体プログラム

ホームページ・印刷用PDF:

[http://www.ecesj.com/J/events/annual/14th\\_meet/14th\\_program.pdf](http://www.ecesj.com/J/events/annual/14th_meet/14th_program.pdf)

#### ■9月21日(火) 1日目

10:00~21:00 エクスカーション: 積丹川流域  
(21日現地での懇親会費用含む)

#### ■9月22日(水) 2日目

7:30~12:30 エクスカーション: 積丹川流域  
(かでの会場へ移動)  
12:30 開場, 受付開始 【受付: 4F大会議室前】  
13:00~14:00 第14回研究発表会: ポスター発表  
「概要1分発表:68編」  
【7F710会議室】  
14:00~17:00 第14回研究発表会: ポスター発表  
セッション1~9 【4F大会議室】

#### ■9月23日(木) 3日目

9:15 開場, 受付開始 【受付: 1F110会議室】  
9:30~15:15 第14回研究発表会: 口頭発表セッション1~2  
【4F大会議室】  
9:30~15:15 第14回研究発表会: 口頭発表セッション3~5  
【8F820研修室】  
10:00~15:30 現地自由集会: 応用生態工学会 札幌  
「札幌の川, ざわめく自然を体験しよう!  
~研究者とじっくり魚とり~」  
【札幌市豊平川さけ科学館】  
13:30~18:00 自由集会: 応用生態工学会 札幌 ザリガ  
ニ研究会 「ザリガニの保全」  
【5F520研修室】  
15:30~17:00 自由集会: 応用生態工学会 COP10 対応  
WG・伊勢湾流域圏の自然共生型環境管  
理技術開発研究グループ  
「流域圏から考える生物多様性保全」  
【4F大会議室】  
15:30~17:00 自由集会: 応用生態工学会 若手の会  
「もっと読みたい事例研究」  
【10F1040会議室】

15:30~18:00 自由集会: 英語セッション  
「Prof. Cliff Dahm との議論」  
【10F1030会議室】

#### ■9月24日(金) 4日目

11:00~12:00 総会 【かでのホール】  
13:00~17:00 公開シンポジウム 【かでのホール】

#### (2) 参加申込み・参加料

研究発表会に参加される方(発表者を含む)は、下記の参加申込みフォームからお申込下さい。

大会参加申込みフォーム:

[http://ecesj.com/FS-APL/FS-Form/form.cgi?Code=annual\\_con](http://ecesj.com/FS-APL/FS-Form/form.cgi?Code=annual_con)

#### 1) 研究発表会参加料

正会員・賛助会員: 6,000円, 非会員: 10,000円, 学生会員・学生非会員: 3,000円

#### 2) 懇親会参加料

5,000円(当日参加:6,000円)

#### 3) エクスカーション 1泊2日参加料

一般: 12,000円 学生: 6,000円

行先: 積丹川(二級河川)の上流~中流~河口  
コース説明: 柳井清治(石川県立大), 長坂有・長坂晶子(道林業試), 永田・ト部(道水産試)・池田宏(元筑波大)

※定員:80名先着順(一般50名, 学生30名)

※集合場所までの交通費等は自己負担。1日目の昼食は、各自車中食を用意してください。

※22日帰りのバスは、12:30かでのホール到着予定です。22日のポスター発表は13:00開始となりますので、ポスター発表をされる方には別途お車を用意しますので、申込み時にお知らせください。

注1) 指定口座に振り込む場合、参加する個人名がわかるような「振込者名」にして下さい。

注2) 総会(9月24日(金)11時00分~12時00分)のみ出席する正会員は無料です。

注3) 公開シンポジウム(9月24日(金)13:00~17:00)の参加料は、非会員も含めて無料です。

注4) 研究発表参加料には、当日配布する講演集費用を含みます。ただし、講演集のみ入手希望の方には、3,000円で販売いたします。

注5) 合計参加料は、参加者名を明記の上、指定口座(参加申込書に記載)にお振込み下さい。

注6) 交通手段および宿泊先は、各自でご手配下さい。

注7) 研究発表会・公開シンポジウムは会場の定員(300名)で締め切ります、お早めに申込下さい。

5.2 マングローブ・河口干潟の保全とその技術

フィールドシンポジウム

億首川マングローブの観光・教育資源、生物・水産資源としての価値を再確認し、その保全のための課題を探る！！

応用生態工学会・那覇  
宮良 工 (財) 沖縄県環境科学  
センター 総合環境研究所

日時：平成22年8月20日(金)、21日(土)

場所：1日目(20日) 現地観察会

[億首川 大浦川 漢那福地川 他]

2日目(21日) シンポジウム

[ネイチャーみらい館体験実習棟]

参加費：無料 (ただし懇親会は会費制)

主催：応用生態工学会・那覇

共催：(財)沖縄県環境科学センター

リュウキュウアユを蘇生させる会

後援：内閣府沖縄総合事務局開発建設部、  
沖縄県土木建築部河川課、金武町、  
(社)沖縄建設弘済会

お問い合わせ：(財)沖縄県環境科学センター総合環  
境研究所内 応用生態工学会・那覇  
マングローブ・河口干潟の保全とそ  
の技術に関するフィールドシンポ  
ジウム実行委員会

電話：(098)875-1941

案内チラシ・参加申込用紙 PDF

<http://www.ecesj.com/J/events/2010/20100820okinawa.pdf>

開催プログラム

1日目:8月20日(金)

(1)現地観察会 8:30~15:00

- 1)億首川福花橋集合
- 2)億首川マングローブ
- 3)大浦川マングローブ
- 4)漢那福地川 (漢那ダム) マングローブ
- 5)億首ダム見学

(2) 懇親会 18:30~21:30

ネイチャーみらい館  
(多目的ピロティにてBBQ)

2日目:8月21日(土)

(1).開会挨拶 10:00~10:05

(2)シンポジウム講演 10:05~14:30

- 1)中須賀 常雄 (琉球大学・元教授)  
マングローブ林の成立条件と億首川のマングローブ

2)諸喜田 茂充 (琉球大学・名誉教授)

マングローブ林の水産上の役割と億首川のマングローブ

3)外間 慎仁 (ネイチャーみらい館・理事長)

億首川のマングローブ林と地域のみらい

4)大槻 順朗 (九州大学大学院工学府)

干潟による河口水温の保全とその効果

ー昼食・休憩・自由交流ー

5)鍵田 和彦 (北部ダム事務所・環境課長)

億首ダム下流のマングローブ林の保全対策の検討について

6)竹村 紫苑 (徳島大学大学院

先端技術科学教育部)

億首川マングローブ林の位置づけと土砂動態・物質輸送

(3) 総合討論 14:40~15:40

1)コーディネーター

鎌田 磨人 (徳島大学大学院

ソシオテクノサイエンス研究部・教授)

2)パネリスト

中須賀 常雄 (琉球大学・元教授)

赤松 良久 (山口大学工学部・准教授), 他

(4) 講評・閉会あいさつ 15:40~15:45

香村 眞徳 ((財)沖縄県環境科学センター特別顧問)

5.3 応用生態工学会地域シンポジウム 山口 /

第37回 水環境フォーラム 山口

主催：応用生態工学会 広島,

水環境学会 中国四国支部

日時：8月28日(土) 13:00~17:20

場所：山口大学工学部 D21 講義室

参加費：500円(資料代)

「水域生態環境評価手法の現状と展開」

いくつかの組織で日本製 HSI (生息場適性指標) モデルの集積がはじまり、またこれまで HSI モデルにかならずしも積極的ではなかった生物系学会で HSI モデルのシンポジウムが開催されるなど、HEP などの生態環境評価手法の基礎となる HSI モデルが日本においても次第に認知され

てきた。本フォーラムでは、生態環境評価手法や HSI モデルに早くから取り組んできた演者により、水域生態環境評価手法の現状とその展開について討議したい。

**プログラム (予定)**

- 13:00-13:05 あいさつ  
 13:05-13:50 「HSI モデルの基礎・批判・展開」  
 山口大学 関根雅彦  
 13:50-14:35 「新しい河川・流域生態環境評価法の開発」 山口大学 赤松良久  
 14:35-14:45 休憩  
 14:45-15:30 「生態プロセスを考慮した HSI モデルの応用:微視化と巨視化の視点から」  
 名古屋大学 田代喬  
 15:30-16:15 「魚の棲む環境を生息場適性指標で表すことは可能か?」 東京大学 知花武佳  
 16:15-16:20 休憩  
 16:20-17:20 パネルディスカッション

17:30-19:30 懇親会 (会費 1,000 円:当日徴収)  
**参加申し込み・問合せ:**

講演会、懇親会のそれぞれの参加・不参加についてわかるように記載し、ファクスまたはメールで下記へお申し込み下さい。

樋口隆哉 (山口大学大学院理工学研究科)

Tel/Fax : 0836-85-9313

E-mail : (下記 URL よりお願いします)

<http://www.ecesj.com/J/events/2010/20100828yamaguchi.html>

**5.4 第9回 北陸現地ワークショップ in 富山**

応用生態工学会 富山  
 佐渡 正(館下コンサルタンツ(株))

ワークショップ日時: 平成 22 年 10 月 1 日 (金)

10:00~17:00 (定員 200 名)

会場: 富山県立大学 大講義室

(送迎バス:小杉駅南口 9:40 発)

交流会日時:平成 22 年 10 月 1 日 (金)

18:30~20:30 《会場:富山地铁ホテル》

現地見学会日時: 平成 22 年 10 月 2 日 (土)

9:00~16:00 (定員 50 名)

出発:富山駅北口 9:00 ,

富山県立大学 正面噴水前集合 9:40

**参加料**

ワークショップ:正会員・賛助会員 1,500 円

非会員 2,000 円, 学生 500 円

交流会:一律 5,000 円 (当日徴収)

現地見学会:正会員・賛助会員 3,000 円

非会員 3,500 円, 学生 1,500 円

※北陸技術士懇談会の会員は、正会員扱いとなります。

**参加申込と振込の締切日**

●同封チラシの申込用紙に記入の上ファックス下さい。

●同等内容の E メールでも受け付けます。

(詳細については、同封チラシをご確認ください)

応用生態工学会 富山

館下コンサルタンツ(株)内 (担当:瀬川)

TEL:076-478-0090 FAX:076-478-1190

※申込締切は 平成 22 年 9 月 17 日 (金) まで

※振込締切は 平成 22 年 9 月 24 日 (金) まで

(詳細については、同封チラシをご確認ください)

**5.5 第3回 近畿現地ワークショップ in 淀川**

~現地で応用!淀川ワンド群の取組の歴史と課題~

応用生態工学会・大阪

厨子和典 ((有)水技研)

日時:平成 22 年 10 月 15 日 (金):現地見学会

平成 22 年 10 月 16 日 (土):ワークショップ

室内ワークショップ会場:大阪工業大学 6 号館

主催:応用生態工学会 大阪

後援(予定):国土交通省近畿地方整備局 淀川河

川事務所,(財)河川環境管理財団

**スケジュール (予定)**

**一日目 (10月15日):現地見学会**

現地テーマ:水上から見る淀川下流の現状と課題

10:00 京阪八幡市駅集合 (9:00JR京都駅)

バス移動

- 10:30 八幡市周辺木津川～枚方市周辺の淀川の  
ワンド見学
- 14:00 枚方船着場・アクアライナー乗船(弁当付き)  
淀川のワンド群や水辺環境を川側から見学, 毛  
馬の閘門を体験, 天満橋到着(16:30)
- 17:00 懇親会会場入口にて当日のデジカメ画像を1枚提出
- 18:00 懇親会(OMMビル 東天紅)

同等内容のEメール(下記URLに掲載)  
でも受け付けます。

[http://www.ecesj.com/J/events/2010/20101015\\_yodogawa.html](http://www.ecesj.com/J/events/2010/20101015_yodogawa.html)

お問合せ: 応用生態工学会 大阪

地域研究会連絡責任者 厨子和典

**二日目(10月16日): 屋内ワークショップ**

会場: 大阪工業大学6号館教室(目の前が城北ワ  
ンド群なので現地見学も可能)

- 10:00 研究発表(ポスター発表, 現地写真紹介)
- 11:00 基調講演「淀川の歴史と未来」(仮題)  
河合 典彦(大阪市立大桐中学校教諭)
- 12:00 昼食(各自学内食堂利用)
- 13:00 パネルディスカッション  
テーマ: 「淀川ワンド群の歴史と課題」(仮題)  
コーディネータ: 綾史郎(大阪工業大学教授)  
パネリスト: 6名程度
- 16:00 終了・解散

**6 今後の予定**

8.13 ニュースレター49号発行

8.19~20 応用生態工学会 那覇 松山沖縄地方の  
河川・干潟・マングローブの保全に関するフ  
ィールドシンポジウム

8.31 多自然川づくり 第2回研修会 中予地区  
(後援: 応用生態工学会松山)

9.21 第14回札幌大会 エクスカーション

9.22 第14回札幌大会 エクスカーション, 研究  
発表(ポスター) [夕方: 各種委員会]

9.23 第14回札幌大会 研究発表(口頭), 自由  
集会(5件), 懇親会

9.24 第14回札幌大会 公開シンポジウム  
[午前: 役員会, 総会]

9.28 多自然川づくり 第2回研修会 東予地区  
(後援: 応用生態工学会松山・予定)

10.1~2 第9回北陸現地ワークショップ in 富山  
(応用生態工学会 富山: 富山県立大学)

10.15~16 第3回近畿現地ワークショップ in 淀川  
(大阪: 淀川)

10月11-29日 COP10(生物多様性条約 第10  
回締約国会議)

12.8 応用生態工学会福岡 地域事例報告会: 福岡  
市内

※応用生態工学会 東京は, 3~4回の勉強会を開催予定

**☆参加費☆**

	現地見学	ワークショップ	懇親会
会員	9,000	1,000	別途現 地で徴 収
一般	12,000	2,000	
学生会員	4,000	無料	
一般学生	5,000	500	
備考	昼食付き	—	

**☆研究発表募集☆**

今回のワークショップに関連して, 研究発表(ポ  
スター発表)を募集します。

テーマは, ワンドなど河川下流域の環境, 整備な  
どに関するテーマなど広く募集します。

参加申込時に研究発表の希望をお申し出ください。

**☆参加申し込み・問合せ☆**

締め切り: 2010年9月30日(木)

方法: 下記URLの案内資料4ページ目の申込  
書に必要事項を記入してファックスして  
ください。

.....

[平成22年8月11日現在会員数]

名誉会員: 4名

正会員: 1,130名

学生会員: 93名 合計 1,227名

賛助会員: 33法人(49口)

